

裏表紙

06

05

03

02

01

目次

ご挨拶・業績概要

業績ハイライト

事業概要・セグメント情報

トピックス

会社及び株式の状況

株主優待制度のご案内

V O L U M E

12

DK VOICE Vol.12

第45期第2四半期 株主通信

2017年4月1日 ―→ 2017年9月30日

DK ダイコク電機株式会社

証券コード 6430



株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期の業績は、誠に遺憾ながら前年同期実績を下回る結果となりました。引き続き厳しい市場環境が予想されますが、提案力強化と積極的かつ果敢な行動を推進し、通期連結業績予想の達成に向けて取り組んでまいります。

株主の皆さまには、今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長 根本 弘

経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧米の政権動向や中国をはじめとするアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響等が懸念されたものの、雇用・所得環境や企業収益の改善等を背景に、緩やかな回復基調で推移いたしました。

当社グループが携わるパチンコ業界におきましては、平成29年9月4日に「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則及び遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則の一部を改正する規則」（施行期日平成30年2月1日）が公布されたことによる今後の対応など、先行き不透明な状況が継続しております。当社は、規則改正など業界を取り巻く市場の変化は中長期的にみて、パチンコ業界がさらに幅広く社会に支持される産業へ進化する好機と捉えており、市場環境の変化に対し臨機応変に対応し、パチンコにおける依存（のめり込み）問題の対策を推進することで、今後も市場の活性化に貢献できるよう努めてまいります。

このような市場環境のもと、情報システム事業におきましては、パチンコホールの新規出店は前年同期より大幅に減少

し、既存店への設備投資はさらに慎重な姿勢となるなか、主力製品の情報公開端末「BiGMO PREMIUM」や「REVOLA」の継続的な販売強化や業界初のファン動向データ情報公開サービスである「Fan-SIS」の提案と当サービス導入に必要な新CRユニット「VEGASIAⅢ」の拡販に努めました。また、今年で14年目を迎えた「DK-SIS白書」2016年度版の発刊記者発表を7月に行い、ホール企業や各組合に対してデータ分析セミナーを積極的に実施することで、当業界が抱える課題の解決に向けた取組みを行いました。

制御システム事業におきましては、規則改正の公布及び施行期日が明示されたことにより、各遊技機メーカーの動向を見据えた機種開発及び販売計画の策定に努めました。また、規則改正後に対応する新たな発想での遊技機の企画提案や、新規商材及び新規コンテンツの提案活動に取組みました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高179億96百万円（前年同期比10.9%減）、営業利益3億75百万円（同38.1%減）、経常利益4億93百万円（同30.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益2億96百万円（同10.1%減）となりました。

財政状態

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、現金及び預金が大きく減少したこと、パチスロ遊技機の販売によるたな卸資産の減少や前払金及び未収入金の減少により前連結会計年度末に比べ31億73百万円減少の267億14百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の固定資産は、取引先の破産手続きが終了したことによる破産債権の減少及び貸倒引当金の戻し入れがありましたが、減価償却費の計上に伴う固定資産の減少により、前連結会計年度末に比べ1億53百万円減少の167億85百万円となりました。

その結果、当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ33億27百万円減少の435億円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年

度に比べ研究開発費の計上や固定資産の取得が少なかったことによる未払金の減少、及び仕入債務が減少したことにより前連結会計年度末に比べ29億1百万円減少の136億1百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の固定負債は、役員退職慰労引当金の減少により前連結会計年度末に比べ1億61百万円減少の10億12百万円となりました。

その結果、当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ30億63百万円減少の146億13百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上額より配当金の支払いが大きかったことにより利益剰余金が減少し、前連結会計年度末に比べ2億64百万円減少の288億87百万円となりました。

以上により自己資本比率は66.4%（前連結会計年度末比4.1ポイント上昇）となりました。

通期の業績予想

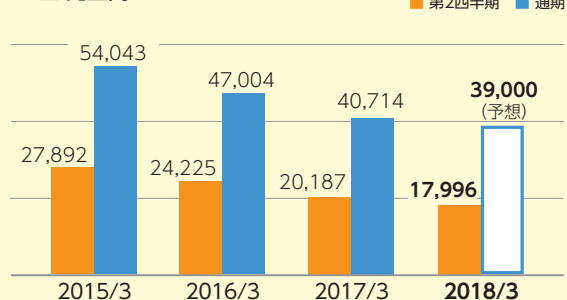
平成30年3月期通期連結業績予想におきましては、平成29年5月15日に公表しました予想値から変更はありません。

●通期予想及び第2四半期連結累計期間における業績進捗率（単位：百万円）

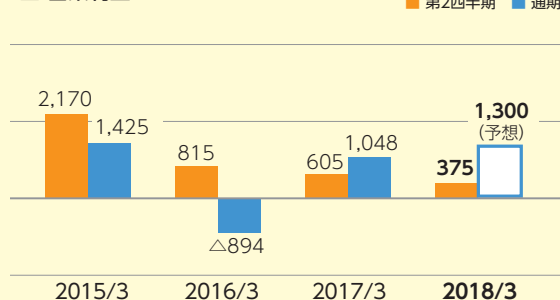
	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益
第2四半期連結累計期間	17,996	375	493	296
通期予想	39,000	1,300	1,300	800
進捗率（%）	46.1	28.8	38.0	37.0

業績ハイライト

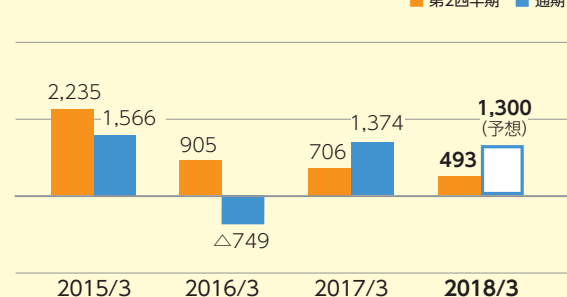
売上高



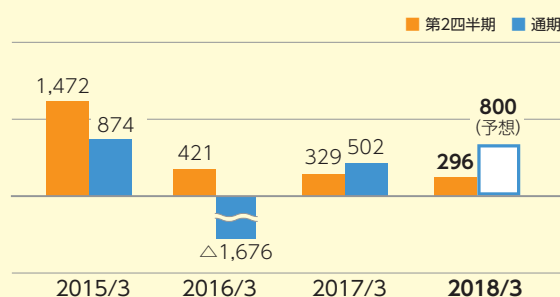
営業利益



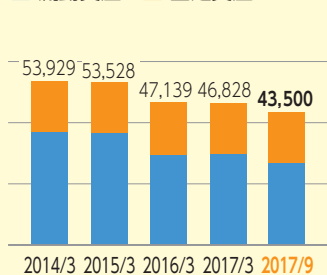
経常利益



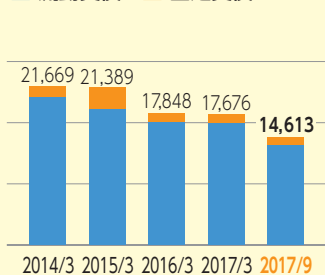
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



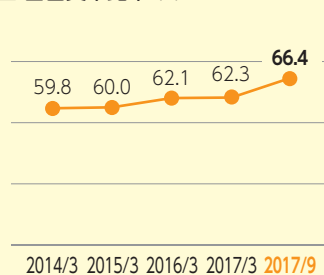
流動資産 固定資産



流動負債 固定負債



自己資本比率 (%)

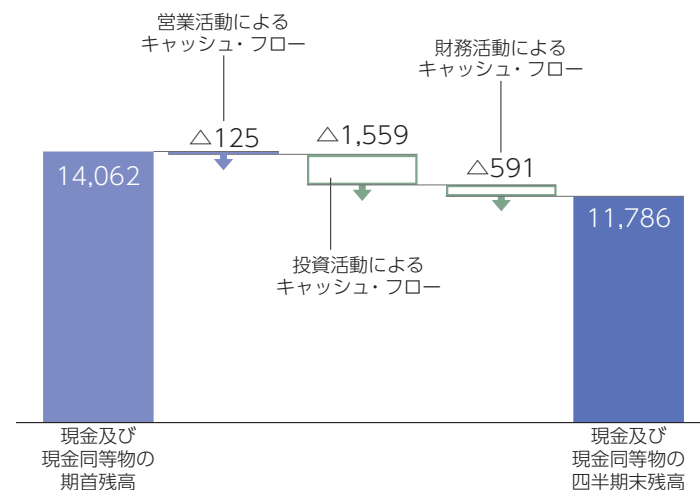


(単位：百万円、単位未満は切捨て)

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	当第2四半期 2017年4月 1日から 2017年9月30日まで	前第2四半期 2016年4月 1日から 2016年9月30日まで	前期 2016年4月 1日から 2017年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	△125	6,457	9,339
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,559	△1,473	△1,696
財務活動による キャッシュ・フロー	△591	△2,790	△2,938
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△2,275	2,192	4,703
現金及び現金同等物の 期首残高	14,062	9,358	9,358
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	11,786	11,550	14,062

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要



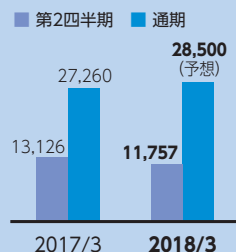
パチンコホールと遊技機メーカーの双方へ革新的な製

情報システム事業

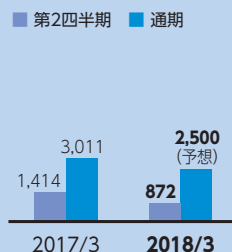
パチンコホール向けに、店舗運営に必要な管理機器「ホールコンピュータ」をはじめとする情報システム機器を提供するなど、企業経営・店舗運営を支援しています。



売上高



セグメント利益



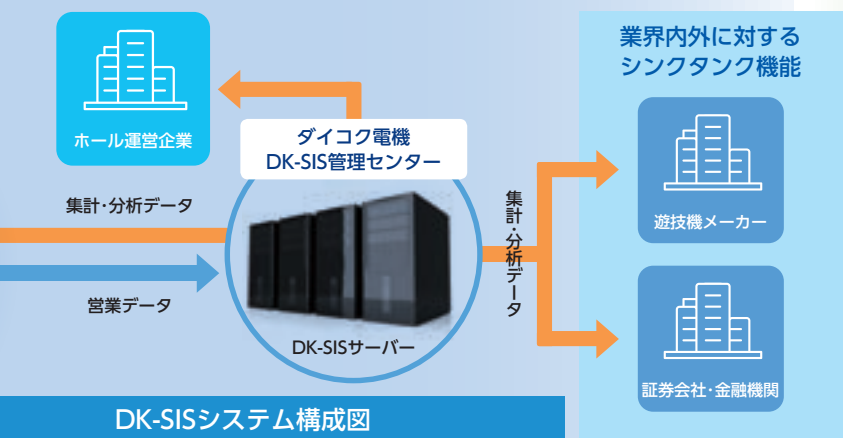
当期の営業概況

パチンコホールの設備投資意欲が消極的となる厳しい市場環境のなか、ファン向け情報公開端末は市場から安定した評価をいただき、新規採用顧客（パチンコホール）も増加しました。しかしながら前年同期に比べて新規出店が減少したことなどにより、CRユニットVEGASIAシリーズ及び景品顧客システムの販売台数が前年同期を下回りました。



NEW CRユニット「VEGASIAⅢ」

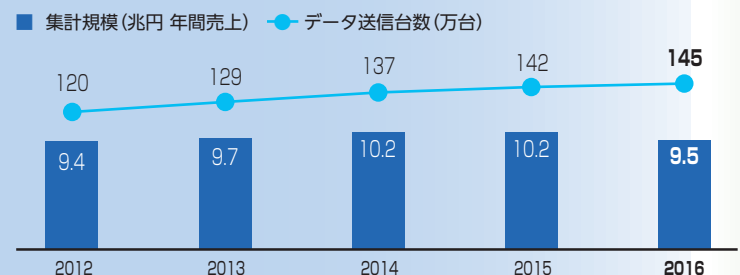
品を提供し続ける市場創造型の企業です。



会員制情報提供サービス「DK-SIS」

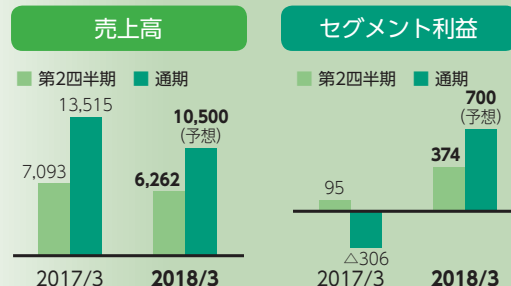
「DK-SIS」は、1990年(平成2年)に店舗経営を支援する会員制システムとして誕生しました。パチンコホールの基幹システムであるホールコンピュータとダイコク電機とを専用回線で結び、日々の営業データを収集し、分析、加工後、パチンコホールに各種データを提供する顧客支援システムです。遊技機データ量は約145万台分、金額換算すると9.5兆円分のデータをベースに、遊技機動向や営業データなど付加価値の高い情報を提供。ホール経営支援から業界の発展へも貢献しています。

この大規模データを活用し、証券会社や金融機関など業界外にもパチンコ業界の指標を配信。リアルタイムで客観的な数値情報を公開することで、業界に対する信頼を構築しています。



制御システム事業

パチンコ・パチスロ遊技機メーカーに対し、遊技機の表示や制御ユニットのハードウェア及びソフトウェアの開発からセールスプロモーションまで手がけています。また、子会社のDAXELではパチスロ遊技機を製造・販売しています。



当期の営業概況

パチンコ遊技機向けの部品販売は好調に推移しましたが、表示ユニットで1機種の販売が下期以降に延期となり、販売台数が前年同期を下回りました。パチスロ遊技機においては期初の計画を若干上回る約5,500台（前年同期は約8,800台）の市場投入となりました。

また、研究開発費が減少したこと及び平成27年4月に発生した取引先遊技機メーカーの破産手続きが、平成29年7月で終結決定したことに伴う、貸倒引当金の戻し入れなどにより、セグメント利益は前年同期を上回りました。

ダイコク電機
DK

遊技機メーカー

- 遊技機市場の変化に対応した企画開発
- 表示用ユニット、制御用ユニットの提供
- 映像制作・プログラミング
- 品質管理 (デバッグ・検査)

パチスロ遊技機の企画・開発・製造・販売



パチスロ
さらのおとしものフォルテ



パチスロ
結城友奈は勇者である

連結子会社 DAXEL株式会社

NOW MIRAIGATE 2017 SHIN-KA ～新たな価値はファンと共に～

2017年5月19日の名古屋会場を皮切りに、福岡、大阪、東京の全国4会場、延べ6日間にわたりダイコク電機展示会&セミナーを開催しました。

今回の展示会では、多くの問題を抱える業界の中でパチンコホールがいかんして生き残り、そして業績を上げるために何が必要なのか、これらの提案を3つのコーナーで行いました。

新製品のCRユニット「VEGASIAⅢ」を中心としたコーナーでは、業界初となる“光るユニット”の演出力や、「VEGASIAⅢ」と情報公開機器や景品・顧客システムとの連動によるファンの利便性の向上、顔認証カメラの標準装備によるセキュリティ強化をアピールしました。また、ファンが安心して快適に遊技できる空間の提供が遊技時間や遊技機種数のアップに重要であることを理解していただきました。

新サービスの全国ファン動向データ公開サービス「Fan-SIS」の紹介コーナーでは、自店のファン動向データだけでは見えてこない全国平均データとの比較による精度の高い機種評価や客層別分析などを活用した業績向上策を提案し、他社には真似できない当社のファン動向分析力を実感していただきました。

ファン向けサービス「サイトセブン」「パチロボ」のコーナーでは、ファンが遊技した後の台の最終結果を閉店後に通知する新機能など店内のみならず店外のファンに向けた情報公開により、他店との差別化を図ることで来店動機付けにつながることをお客さまにアピールしました。

今後もダイコク電機の総力を結集し、“オールウェイズパートナー”、“ファン・ファースト”の視点で製品開発により一層注力してまいりますので、どうぞご期待ください。



NOW DK-SISセミナー

今回のセミナーでは新基準機に該当しないパチスロ遊技機(旧基準機)を市場から減らしていかないといけない中での対応策について、パチンコホール向け会員情報提供サービス「DK-SIS」や新サービス「Fan-SIS」のデータを用いて提案を行いました。

パチスロに関しては旧基準機同士の入替、5.5、5.9号機への入替、もしくは5.5、5.9号機を増台する場合のポイントや、成功に導くためのベストな機種構成について解説しました。

さらにパチスロ旧基準機の減台・撤去後のファン動向については、パチスロの出玉性能が大きく下落した2007年のデータや「Fan-SIS」のファン回遊データを元に、パチンコへ移行する可能性が高いと推測し、パチスロからパチンコへの入替を推奨しました。その際の機種選定の仕方と活用方法なども説明しました。

セミナー終了後はお客さまからの相談が一層多くなり、ダイコク電機及びDK-SISへの期待感を再認識できました。今後もより頼られる存在になるよう様々な提案、情報発信を行ってまいります。



NOW 「DK-SIS白書2016」 発刊

このたび当社は創刊から数えて14冊目となる「DK-SIS白書2016」を発刊いたしました。本書は、市場シェア32%にあたる145万台もの膨大なホールの営業データを日々集計・分析し、1年分の情報を集約したものです。

本書ではパチンコにおいて業績の主軸であったマックスタイプ（当たり確率が1/320より低い機種＝射幸性が高い）が市場から撤去され、パチスロにおいては新基準機に該当しない射幸性の高い遊技機の設置比率を50%以下にし、業界がより遊びやすい環境の実現に踏み出した1年をまとめてあります。

その中で実際には遊びやすい環境を構築できておらず、粗利率が高すぎるなどを指摘し、ファンとの共存を目指すことを促しております。

市場の変化に対応するためのツールとして、DK-SIS並びに本書がホール経営企業の皆さまの一助となることを願っております。



NOW 「名証IRエキスポ2017」に出展

2017年7月21日（金）・22日（土）の両日、名古屋市中企業振興会館（吹上ホール）にて行われた名古屋証券取引所主催の「名証IRエキスポ2017」にブース出展いたしました。今回で連続14回目の出展となるこのイベントは今年も盛況で、2日間で8,400名もの来場者がありました。

当社ブースでは面談形式で、パチンコ業界の現状や会社業績、株主優待などの株主還元について説明させていただきました。200名を超える株主や個人投資家の皆さま一人ひとりと貴重な対話の機会を持つことができ、大変有意義な出展となりました。

今後も当社への興味を持っていただけるよう継続的なIR活動を行い、当社の知名度・認知度の向上に努力してまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



会社及び株式の状況 (2017年9月30日現在)

会社概要

商 号 ダイコク電機株式会社
DAIKOKU DENKI CO., LTD.

創 業 1965年 9月

設 立 1973年 7月

資 本 金 6億7千4百万円

本 社 名古屋市中村区那古野一丁目43番5号

従業員数 (単独) 441名 (連結) 656名

事業内容 パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売
パチンコ遊技機用ユニット・パチスロ遊技機の開発・製造・販売

決 算 期 3月31日

事 業 所 3事業所、4支店、13営業所

連結子会社 元気株式会社、DAXEL株式会社、
ダイコク産業株式会社、アロフト株式会社

役員

代表取締役会長	栢 森 雅 勝
代表取締役社長	根 本 弘
代表取締役専務	栢 森 健
常務取締役	丹 羽 時 重
常務取締役	大 上 誠 一 郎
取締役	栢 森 啓
取締役	藤 巻 靖 裕
取締役	松 原 真 那 武
取締役	大 成 俊 文
取締役	足 立 芳 寛
取締役	武 田 邦 彦
常勤監査役	吉 川 幸 治
監査役	村 橋 泰 志
監査役	田 島 和 憲
監査役	知 念 良 博

(注) 1. 取締役 足立芳寛氏、武田邦彦氏は社外取締役であります。

2. 監査役 村橋泰志氏、田島和憲氏、知念良博氏は社外監査役であります。

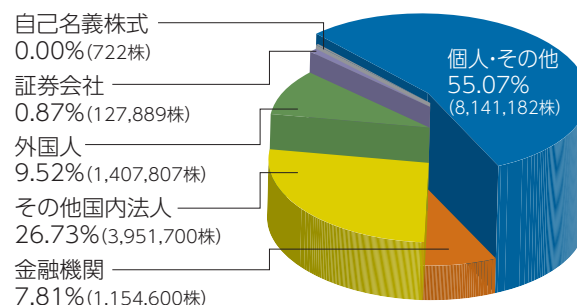
株式の状況

発行可能株式総数 66,747,000 株

発行済株式総数 14,783,900 株

株主数 11,056 名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
栢森 健	1,772,200	11.98
栢森 雅勝	1,031,650	6.97
栢森 秀行	961,000	6.50
栢森 美智子	926,000	6.26
栢森 寿恵	887,000	5.99
栢森 和代	773,000	5.22
公益財団法人栢森情報科学振興財団	750,000	5.07
栢森 新治	443,450	2.99
ビーエヌワイエムエスエーエヌバイ ノン トリーティー アカウント	375,800	2.54
ダイコク電機従業員持株会	223,667	1.51

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日

定時株主総会 6月下旬

基準日 定時株主総会 3月31日

期末配当 3月31日

中間配当 9月30日

その他必要があるときは、
あらかじめ公告いたします。

一単元の株式数 100株

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒460-8685

名古屋市中区栄三丁目15番33号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063

電話照会先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

TEL.0120-782-031 (フリーダイヤル)

取次事務は三井住友信託銀行株式会社の
本店及び全国各支店で行っております。

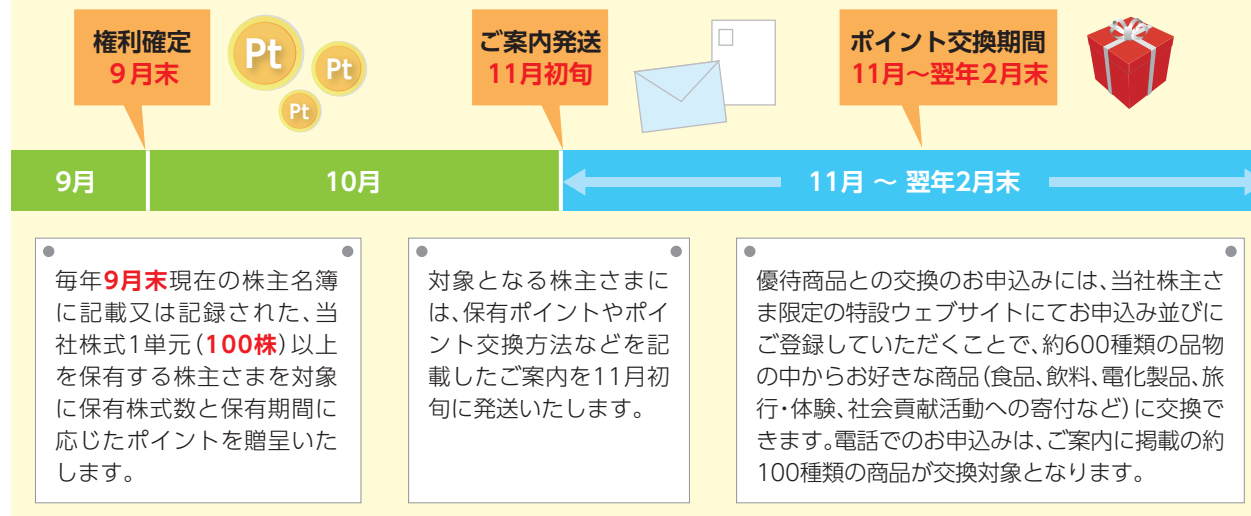
公 告 方 法 電子公告によります。ただし、やむを得ない
事由によって電子公告ができない場合は、
日本経済新聞に掲載いたします。

公告のホームページアドレス

<http://www.daikoku.co.jp>

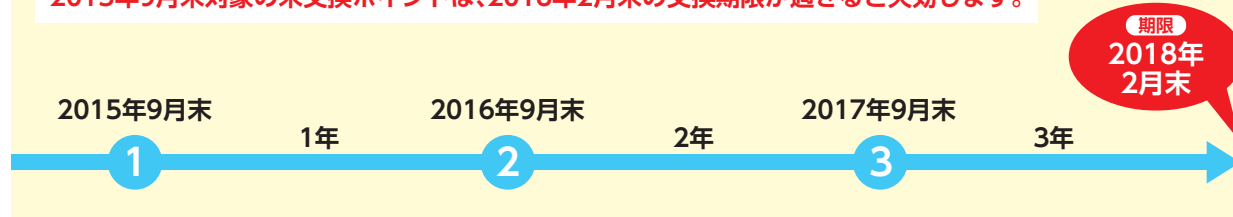
株主優待制度のご案内

■ポイント交換までの流れ



■ポイント繰越有効期限について

ポイントの繰越条件、繰越有効期限にご注意ください！
2015年9月末対象の未交換ポイントは、2018年2月末の交換期限が過ぎると失効します。



お問合せ先

ダイコク電機
株主優待事務局

0120-907-992 [受付時間: 平日9:00~17:30
土・日・祝日・年末年始(12/28-1/4除く)]

優待内容と繰越条件・有効期限について

check 保有株式数と贈呈ポイント

毎年9月末日の株主名簿に記載又は記録された、当社株式1単元(100株)以上を保有する株主さまを対象に、保有株式数と保有期間に応じたポイントを贈呈いたします。ポイントは食品、飲料、電化製品、旅行・体験などに交換できます。また、社会貢献活動への寄付も可能です。

保有株式数	贈呈ポイント数	
	初年度	1年以上保有※
100~299株	3,000ポイント	3,300ポイント
300~499株	6,000ポイント	6,600ポイント
500~699株	12,000ポイント	13,200ポイント
700~999株	15,000ポイント	16,500ポイント
1,000株以上	20,000ポイント	22,000ポイント

※1年以上保有(9月末日現在の株主名簿に同一の株主番号で連続2回以上記載されること)

check ポイント繰越の条件

交換しなかったポイントは同一株主番号で、100株以上継続保有の場合、手続き無しで繰越できます。全株式を売却(100株未満の保有も含む)、もしくは名義変更や貸株等で株主番号が変更になった場合は、権利確定日において繰越されたすべてのポイントは失効します。

check ポイント繰越有効期限と注意点

ポイントの繰越有効期限は3年です。2015年より毎年9月末日の権利確定日ごとに保有期間1年とみなし、カウントいたします。2015年9月末対象の贈呈ポイントは有効期限をむかえます。2018年2月末までに交換してくださいようお願いいたします。**未使用のまま交換期限を過ぎたポイントは失効します。**